

ウェザーマップ



ウェザーマップは民間気象予報業務許可事業者です。1992年にお天気キャスターの草分けである森田正光が創業し、その後気象予報士制度の発足や気象予報業務自由化等の気象業務を取り巻く環境の変化や気象に対する社会ニーズの高まりとともに発展し、現在では気象ビジネス業界において必要不可欠な存在となっております。2015年6月に当社グループの一員となりました。

同社は創業以来、気象予報士によるテレビ・ラジオなど放送局の天気予報番組・コーナーへの出演や番組内の天気予報原稿作成を中心に事業展開しております。70名を超える所属の気象予報士がマスコミの現場に長く携わってきた経験を活かし、気象解説のプロとしてお茶の間の方にわかりやすい解説を心掛けています。また、気象情報需要の高まりを受けインターネットを通じた独自の気象コンテンツの提供・気象ニュース・動画の配信なども積極的に行っています。その他、講演会や各種イベントなどでの講演活動、気象予報士資格取得スクールの運営や資格取得者の就業支援も行っており、人材育成にも注力しています。

今後は、「映像」の分野で、当社グループの各社と連携して、気象ビジュアルライゼーションサービスやコンテンツ開発等に取組んでまいります。

会社概要

商号	株式会社ウェザーマップ
代表取締役	森田正光
設立年月日	1992年9月 気象庁予報業務許可 第40号
本社	東京都港区赤坂5-4-9 いちご赤坂五丁目ビル6F



Yahoo! 動画天気予報



森田社長

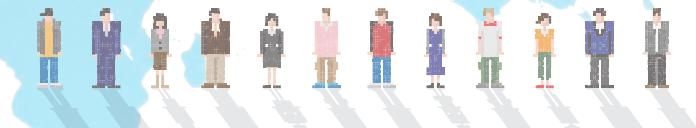


資格講座風景



冷し中華前線

Imagica Robot Holdings Inc.



株主・投資家の皆さまへ

2015年4月1日▶2016年3月31日

トップメッセージ	1
特集：OLMグループを連結子会社化	3
年間トピックス	5
決算ハイライト	7
会社情報／株式情報	9
グループ会社のご紹介	11

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015年4月1日に米国のSDIメディアを連結子会社化し、新たにイマジカ・ロボットグループの事業領域にメディア・ローカライゼーション事業が加わりました。これにより2016年3月期の売上高が700億円規模に拡大いたしました。一方で同社が保有するのれんの減損により親会社株主に帰属する当期純利益は前期より約28億円減少し、15億円超の赤字となりました。

このような業績を踏まえ、経営責任を明確にし、役員報酬の減額を実施することといたしました。親会社株主に帰属する当期純損失は上場以来初で、皆さまにはご心配をおかけいたしました。SDIメディアの管理体制見直しとともに事業強化に一層取り組んでまいり所存であります。

なお、本年4月より、株式会社オー・エル・エム(OLM)をはじめ連結子会社が6社加わり、今後も世界最高の映像関連企業を目指し、さらなる成長をはかってまいりますので、株主・投資家の皆さまにおかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



代表取締役社長

塚田真人

2016年3月期はSDIメディアの連結子会社化で売上規模が拡大するも、のれんの減損により赤字計上

2016年3月期は、連結売上高700億36百万円(前年同期比25.8%増)、営業利益6億53百万円(同62.6%減)、経常利益7億60百万円(同54.3%減)、親会社株主に帰属する当期純損失15億55百万円(同28億円減)となりました。

新たに加わりましたメディア・ローカライゼーション事業が売上拡大に貢献いたしました。既存5事業につきましては、前期2015年3月期に、映像ソフト事業において過去最多数の映画作品公開となり、また映像システム事業におきましては新製品販売による過去最高益を更新いたしました。こうした前期実績には届かないものの、売上・利益ともに堅調に推移いたしました。なお、放送事業、人材コンサルティング事業においては前期比増の業績となりました。

放送事業は、運営するチャンネル「イマジカBS」がおかげさまで開局20周年となり、「歌謡ポップスチャンネル」とともに着実に加入者が増加しております。

人材コンサルティング事業においては、主力の派遣事業の他に人材紹介事業が順調に推移するとともにゲーム関連のコンテンツ制作受託、デバッグサービスが好調で前期実績を大きく上回りました。

世界37カ国の80言語に対応した映像コンテンツの字幕・吹き替えサービスを行うメディア・ローカライゼーション事業は、放送業界を取り巻く世界的な環境の変化、欧州市場における販売価格の低下および外部委託コストの上昇、為替相場の変動等により一部の地域において業績が想定どおりに達成できず、また、J-SOX等経営管理に対する体制整備の費用増加も業績圧迫の要因となり、買収当初予定していた期間内に業績が回復しないことが想定されるため、慎重に検討し、のれんの一部を減損いたしました。

2017年3月期はOLMの連結子会社化でさらに売上規模拡大、黒字回復

2017年3月期は、各事業分野での拡大とともに、「妖怪ウォッチ」「ポケットモンスター」両シリーズ等のTV・劇場向けアニメーションをはじめとする映像制作プロダクションOLMの連結子会社化により、連結売上高は前期比約150億円増の850億円、営業利益12億円、経常利益13億円、親会社株主に帰属する当期純利益7億500万円の計画であり、黒字回復を見込んでおります。なお、SDIメディアならびにOLM等の買収に伴い発生するのれん償却費等を除く、のれん等償却前営業利益は、25億円の計画であります。

今後の成長に向けて

映像技術サービス事業は、映像制作・流通分野のネットワーク化によりビジネスモデルが大きく変化している環境下にあります。リソースの最適化、業務プロセスの改善に努め、またネットワークを活用した制作支援サービスや4K・8K映像関連サービス等、映像分野の技術革新を先取りすることで差別化を図り収益力を強化してまいります。

映像ソフト事業は、OLMが加わり規模拡大に寄与する他、オリジナルIPを含め良質なコンテンツの開発・活用を目指すとともに、映画制作、またCM等の広告映像制作分野の事業をさらに強化し、増収増益を計画しております。

放送事業は、各チャンネルの媒体価値の向上を図って収益力を強化するとともに、放送コンテンツの他メディア展開を目指します。また、ホテルテレビ事業では、海外衛星放送サービス「liDS」の拡販を推進してまいります。

映像システム事業は、イメージング分野において、次世代カメラの開発体制とワールドワイドでの営業力や技術サ

ポート力を一層強化し、またプロ用映像機器分野においては、放送局への拡販とサポート体制を強化してまいります。

人材コンサルティング事業では、メディアやイベント等の人材獲得機能や育成教育機能を強化し、人材紹介事業の拡大を推進いたします。また、コンテンツ制作受託やデバッグサービスと連動し、映像関連の人材事業の拡大に注力してまいります。

メディア・ローカライゼーション事業におきましては、管理機能を強化し業績回復を図るとともにグループ全体でシナジーの創出に取り組み、今後の新たな顧客価値の創造と業績の改善に努めてまいります。

安定した配当政策を実施することを基本方針としております

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の最重要事項のひとつと位置づけ、財務体質の強化および経営環境の変化に対応するために必要な内部留保の充実等を勘案し、安定した配当政策を実施することを基本方針としております。今後とも、中長期的な視点に立って、成長が見込まれる事業分野に経営資源を投入することにより持続的な成長と企業価値の向上を図り、株主価値の増大に努めてまいり所存であります。

当事業年度につきましては、最終赤字となりましたが、基本方針を踏まえ、前期と同額の1株あたり15円の配当といたしました。また、次期の配当につきましては、財政状態、経営成績および内部留保の状況を総合的に判断した上で決定いたしますが、現在のところ1株につき10円とさせていただきます。予定であります。

アニメーション制作大手

OLMグループを連結子会社化

当社は、2016年4月4日付でアニメーション制作大手の株式会社オー・エル・エム(以下、OLM)の発行済株式の87%を取得し、連結子会社化しました。

OLMについて

OLMグループは、TV・劇場用アニメーションを主体とした各種映像の制作を行っており、「ポケットモンスター」シリーズや「妖怪ウォッチ」シリーズ等のTV・劇場用アニメーション作品の企画立案から、シナリオ・演出・作画・デジタル処理までのトータルマネジメントを行い、良質なアニメーション作品の制作を主体としております。その他にも、強みとするCG技術を活かして、実写映画・ドラマ等の多彩なジャンルのエンタテインメント作品のプロデュースも行っております。



(作品画像)

「ポケモン・ザ・ムービー XY&Z
ボルケニオンと機巧のマギアナ」
©Nintendo・Creatures・GAME FREAK・TV Tokyo・ShoPro・JR Kikaku
©Pokémon ©2016 ピカチュウプロジェクト ©2016 Pokémon. ©1995-2016 Nintendo/Creatures Inc. /GAME FREAK inc.

「フューチャーカード
パディファイトDDD」
©相棒学園2016/テレビ愛知

(作品画像)

「妖怪ウォッチ」
©LEVEL-5/妖怪ウォッチプロジェクト・テレビ東京

(作品画像)

- ☑ 世界に通用するクリエイティブ力
- ☑ 製作委員会への出資を通じて、商品化権等のライセンスを獲得
- ☑ アニメーションのトッププレイヤーであり、放送局・出版社・ゲーム会社等の大手とのネットワークが豊富
- ☑ 「ポケットモンスター」シリーズや「妖怪ウォッチ」シリーズをはじめとするアニメーションのヒット作品を生み出す企画・プロデュース力
- ☑ VFXに関する業界屈指の高度な技術力

会社名	株式会社オー・エル・エム(英語表記・OLM, Inc.)
本社所在地	東京都世田谷区
代表者	代表取締役 奥野 敏聡
事業内容	TV・劇場用アニメーションを主体とした各種映像の制作
設立	1994年6月
資本金	4億90百万円
従業員数	176名(単体)
株式譲渡日	2016年4月4日付
子会社	株式会社オー・エル・エム・デジタル Sprite Animation Studios 他2社

OLMをグループ会社化した理由

当社グループは、ロボット・ピクスにおいて主として実写映画・ドラマ・CM等の映像ソフト制作事業を展開しておりますが、これに子供たちに親しまれているOLMのアニメーション事業を獲得することで、映像ソフト制作事業の強化を図るとともに、実写映画やTVドラマで獲得できていないビジネス領域である商品化権等のライセンス拡大を図ります。

OLMとのシナジー効果について

OLMがグループ入りすることで、映像ソフト事業の売上は、2016年3月期の123億円から2017年3月期予想215億円と約1.7倍の増加を見込んでおり、規模拡大を図ってまいります。また、機器・ソフト・データセンター等の共同調達・共同利用による制作の効率化、コスト削減、映像制作ノウハウ共有による作品および映像制作技術の高度化、アニメーションのポストプロダクション業務の拡大が見込まれます。さらに、世界中で人気の日本アニメの海外展開によるローカライズ需要の増加によるメディア・ローカライゼーション事業の拡大が期待されます。



「東京プロジェクトマッピング アワードvol.0」を開催

ピクスとイマジカデジタルスケープは、若手クリエイターを対象とした日本最大級のプロジェクトマッピングのコンテスト「東京プロジェクトマッピングアワード vol.0」を2016年3月26日に開催しました。会場となった東京ビッグサイトでは、約1,200人の一般来場者が見守り、参加した7校9チームの学生クリエイターがピクスの支援で「未来」をテーマに制作した作品を上映し、審査が行われ、メディアにも取り上げられるなど盛況となりました。当アワードは、プロジェクトマッピングにおいても次代を担う才能を輩出できるように、若手のクリエイターが新しいものを生み出す機会をつくり、日本の映像産業全体の発展に寄与することを目指しています。今回はパイロット版としての開催でしたが、今回は第1回開催として本年12月に予定しています。



イマジカBS開局20周年記念オリジナル 制作ドラマ「いつも まぢかに」放送

本年10月に開局20周年を迎える「イマジカBS・映画」は、これを記念して、オリジナルドラマ『いつも まぢかに』を制作し、2015年10月より放送を開始いたしました。本作は、20年間にわたって「名画」と寄り添ってきたイマジカBSがお送りする、ある老夫婦と周囲の人々の「人生」に「名画」が仕掛ける小さな「奇跡」の物語で、津嘉山正種、松金よね子、玄田哲章ら、洋画の吹替声優としても活躍する映画チャンネルならではの豪華なキャストिंगとなりました。

また、第二次世界大戦の終戦から70年という節目の年を迎えた2015年夏には、総力特集「戦後70年、映画の記憶」として50日間連続50本の戦争映画を放送し、好評を博しました。



フォトロン製品が“超”モノづくり部品大賞 機械部品賞を受賞

高速度カメラ「FASTCAM Mini UX100」が、モノづくり日本会議と日刊工業新聞社が主催する「2015年“超”モノづくり部品大賞」において、「機械部品賞」を受賞しました。

この賞は、日本のモノづくりの競争力の源泉である、産業・社会の発展に貢献する「縁の下の力持ち」的存在の部品・部材に焦点を当てた顕彰制度です。受賞した「FASTCAM Mini UX100」は、従来製品と同等の撮影性能を維持しつつも、より手軽に簡単に撮影できるというコンセプトのもとに開発した高速度カメラで、撮影機材の運搬設置、撮影現場でのセッティングにかかる時間を大幅に短縮させることが可能となり、より簡単に、さまざまな場所で高速度撮影に利用されています。



昭和初期開業の温泉地の貴重な フィルムをデジタル化

IMAGICAは、昨年創業88周年を迎えた花巻温泉の、昭和5年当時の映像をはじめ、花巻温泉の歩みがかかる貴重なフィルム映像を、デジタル化しました。

今回の花巻温泉のように各地方の商業施設や自治体が所有する貴重なフィルム映像は、数多く存在していますが、保管方法によっては映像の劣化が進み、それらの映像を見ることが難しくなることもあります。こうした地方に眠る貴重な映像を、デジタル化することにより、過去の映像をよみがえらせ、後世に残す事業にもIMAGICAは積極的に取り組んでいます。



TBS×WOWOW共同制作ドラマ「MOZU」、 国際エミー賞<連続ドラマ部門>にノミネート

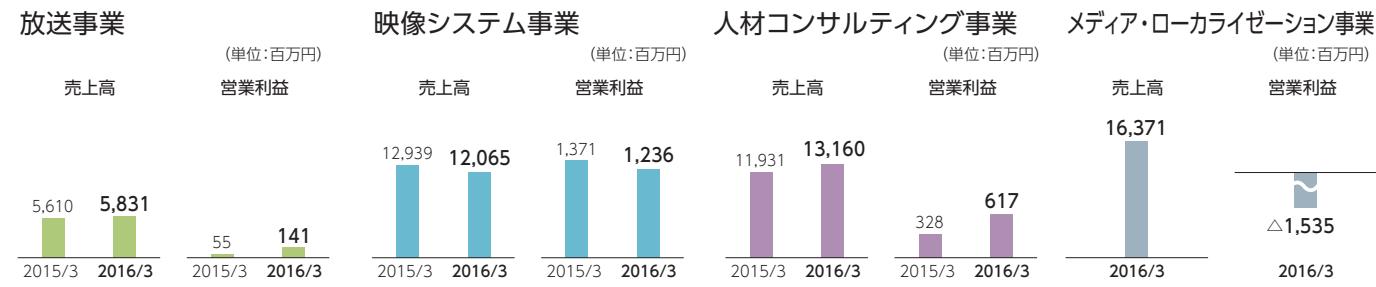
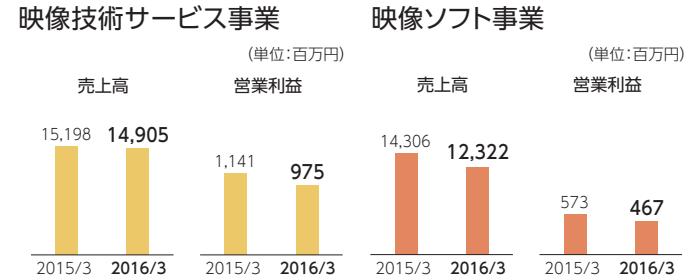
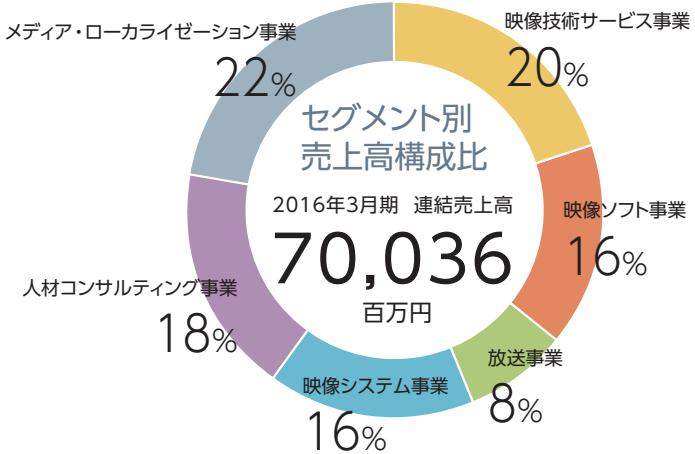
ロボットが2014年に制作したTBS×WOWOW共同制作ドラマ「MOZU」が、第43回国際エミー賞の<連続ドラマ部門>にノミネートされました。グランプリ受賞は逃したものの、最終選考作品の4作品に残る大健闘で、作品の評価のみならず、グローバル市場に通用するエンタテインメントコンテンツを作り出す制作プロダクションとしての評価を獲得しました。



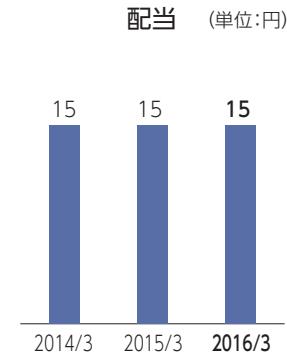
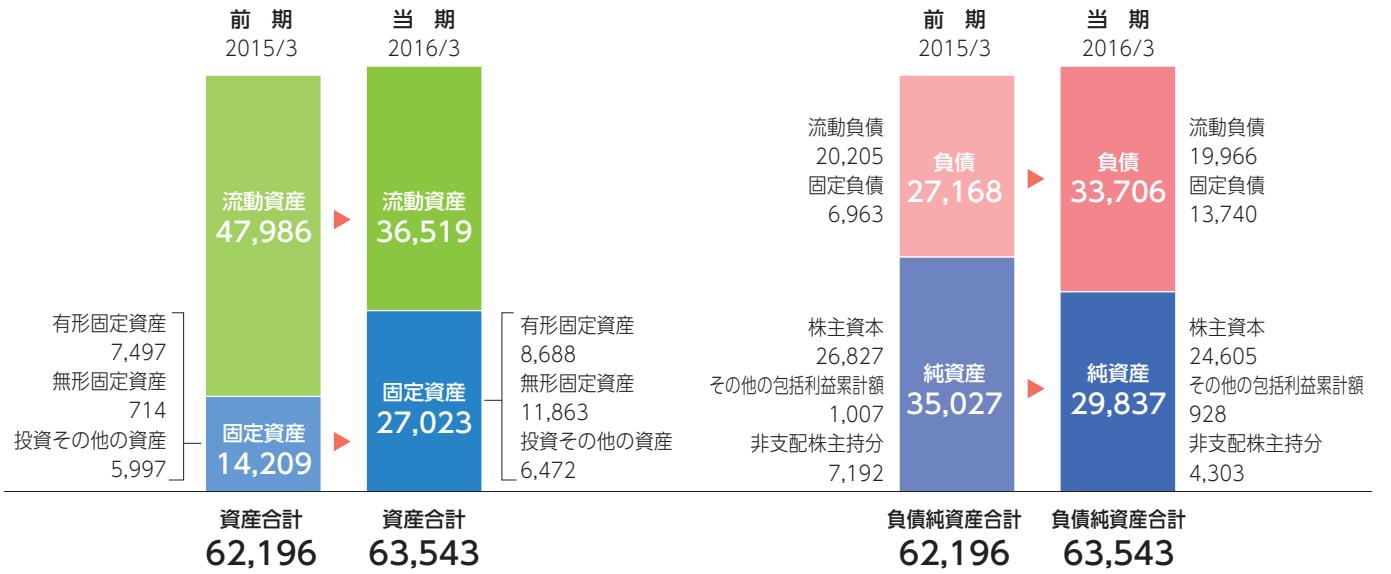
©TBS / WOWOW

決算ハイライト

連結財務ハイライト



財務状況



ホームページ紹介 当社の情報はホームページでもご覧いただけます。

コーポレートサイト
<https://www.imagicarobot.jp/>

IRサイト
<https://www.imagicarobot.jp/ir/>

イマジカロボット 検索

会社情報 / 株式情報

会社概要 (2016年3月31日現在)

商号	株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス Imagica Robot Holdings Inc.
設立	1974年6月10日(創立:1935年2月18日)
本店所在地	東京都品川区
事務所所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番2号 内幸町東急ビル11階
資本金	32億4,491万5,250円
代表者	代表取締役会長 長瀬文男 代表取締役社長 塚田真人
従業員数	2,943名(1,131名)

* 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に外数で記載しております。

役員 (2016年6月24日現在)

代表取締役会長	長瀬 文男
代表取締役社長社長執行役員	塚田 真人
取締役	安藤 潤 布施 信夫 奥野 敏聡
社外取締役	中内 重郎 ニコラス・エドワード・ベネシュ
常務執行役員	北出 継哉
執行役員	大久保 力 竹岡 峰夫 中村 昌志 森田 正和
常勤監査役	角田 光敏
社外監査役	杉野 翔子 岡田 光一郎

株式の状況 (2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	150,000,000 株
発行済株式総数	44,531,459 株 (自己株式108株を除く)
株主数	5,708 名

大株主 (上位10名)

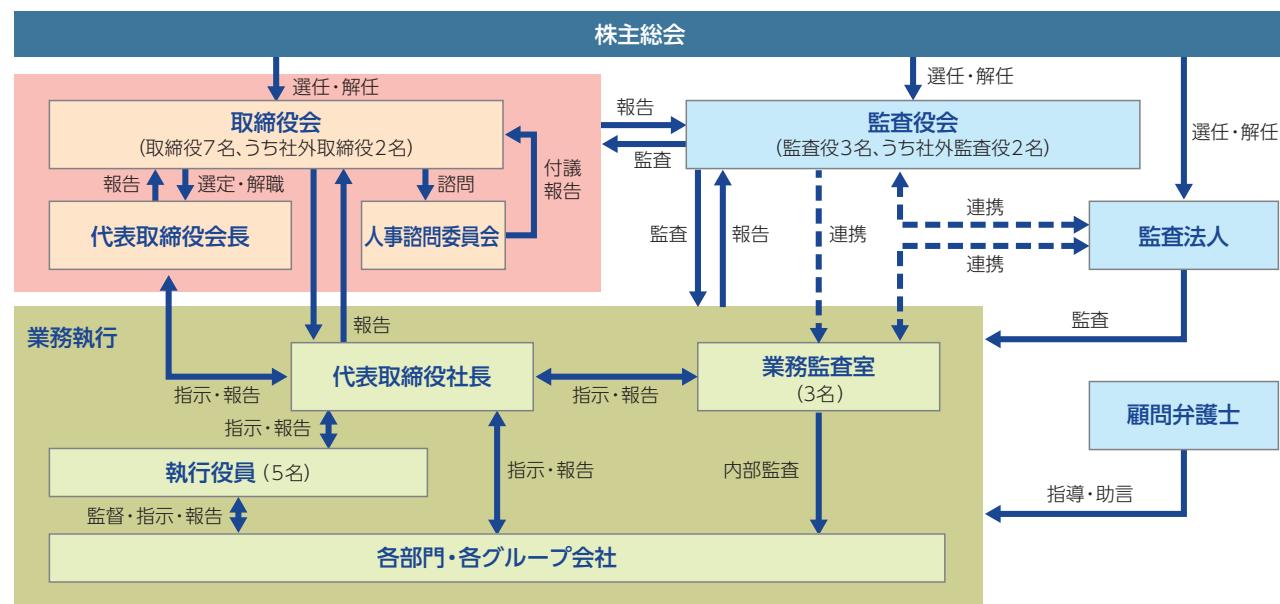
	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社クリアート	26,979	60.58
株式会社三井住友銀行	1,244	2.79
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	848	1.90
株式会社AOI Pro.	800	1.80
三井住友信託銀行株式会社	512	1.15
イマジカ・ロボット ホールディングス 従業員持株会	487	1.10
長瀬文男	403	0.91
株式会社みずほ銀行	400	0.90
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	348	0.78
株式会社TBSテレビ	320	0.72

* 持株比率は自己株式数(108株)を控除して算出しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 0120-782-031(フリーダイヤル) http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由 によって電子公告による公告をすることが できない場合は、日本経済新聞に掲載して 行います。
公告掲載URL	https://www.imagicarobot.jp/ir/announcement.html
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
証券コード	6879

ガバナンス体制図 (2016年6月24日現在)



株式の分布状況

